



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和3年9月1日

9月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

ちからをあわせて

こうちょう さんべい あつし
校長 三瓶 淳

夏休みが終わりました。「もう終わり？」なのか、「やっと終わり！」なのか、感じ方は人それぞれですね。昨年の夏休みは半分以上短縮され、今年は5日間延長されました。来年こそは、夏の日差しをたっぷり受けながら、友達と交流したり、おうちの方とお出かけしたりできるようになっていて欲しいと願うばかりです。

さて、県下で緊急事態宣言が発令されたことを受けて、まさしく嵐が吹き荒れるかの如く、学校教育活動に関する変更指示が下りてきています。昨年度との大きな違いは、準備期間（昨年度は1か月、今年度は1週間）の長さです。出来るだけ保護者に分かりやすく、誤解が生じないように、迅速に伝えようという視点に立ち、文書を発出しています。iPadの持ち帰りも始まりです。毎日のようにお願いする文書が発出されていますが、お子さんの命と学習に関わることはかりです。お忙しいとは思いますが、お子さんと一緒に共有する時間を確保し、ゆっくりとお目通いただければと思います。ご不明なところがある場合は、学校へご相談ください。

ところで、この夏は自宅にいる間、東京2020オリンピック・パラリンピックのためテレビの前にいる時間が多くなりました。メダル獲得数が過去最高となり、体格ではかなわない日本人が、工夫と努力を続けていけば「夢はかなう」というシーンをたくさん見ることができました。特に私が印象に残ったオリンピック種目は、女子バスケットボールの銀メダルとスケートボードで活躍した若者たち、そしてパラリンピックで活躍している全てのアスリートたちです。私自身もバスケットに関わってきた経験もあるので、アメリカとの決勝戦は、どの選手ももてるスキルをすべて出したうえでの結果だと思っています。すべて出してもかなわないものもありますが、戦い終わった後の選手たちの笑顔は、やりきった感が出ていて忘れられません。スケートボードは技術レベルもさることながら、競技する選手同士の仲間意識が他の種目とは違っていました。子どもたちには、遊びからでも自分の得意なことを極めていくと、世界に出られるチャンスになるということに気付いてもらいたいと思いました。そして、障害のあるアスリートの前向きな姿勢に感動の連続です。『失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ！』という言葉はパラリンピックを提唱したルートヴィヒ・グットマンの言葉です。私は、自分の人生やコロナ禍というこのご時世に照らし合わせながら考えてみました。教育活動においては、昨年に引き続き縮小、中止となったものが数多くあります。人と関わることは、今後も大きく制限がかかったままですが、工夫と協力（保護者・地域）によってかなえられそうなことには、教職員全員で挑戦していきたいと思っています。パラリンピックの旗は、赤・青・緑の3色を使い、人間にとってもっとも大切な「心・体・魂」を表現しているそうです。みなさんと今もっている大切な3つの力を合わせて、この難局を乗り越えていきましょう。